

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070501962		
法人名	社会福祉法人 悦和会		
事業所名	グループホーム こうえつ苑 (2階) (3階)		
所在地	〒800-0207 福岡県北九州市小倉南区沼緑町1-1121 TEL 093-471-8215		
自己評価作成日	平成22年10月 1日	評価結果確定日	平成22年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigospip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27		TEL 093-582-0294
訪問調査日	平成22年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

タオル体操やレクリエーションを通じて、ADLや心身両面での健康維持に取り組んでいる。併設施設のグラウンドを活用したり、併設施設と合同で町内納涼祭りや、焼肉夏祭り、運動会、餅つき、中学校吹奏楽演奏、保育園児のお遊戯などの行事を行い地域との交流に取り組んでいる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームこうえつ苑は、軽費老人ホームと併設した2ユニット3階建てで、病院、スーパー、中学校、市民福祉センター等に囲まれた住宅街の一角にあり、利用者、家族、来訪者にとって、利便性の良い環境である。管理者、職員は「利用者が、地域社会の一員として、家庭的な雰囲気、心豊かに笑顔のある生活が送れるように支援していく」という理念に基づき、家族や医師、看護師と、コミュニケーションを取り、利用者の状態を共有し、健康管理は万全のものがある。また、母体法人と町内会合同の納涼祭や運動会、市民センターのふれあい祭り、沼中学校の吹奏楽、幼稚園児の演奏会等、地域との交流は活発で、利用者職員は地域の中で、生きがいのある、楽しい暮らしを満喫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームこうえつ苑独自の理念と介護方針を作り、毎朝理念と介護方針を唱和し、理念に沿ったケアを目指して日々研鑽している	ホーム独自の理念を掲示すると共に、ミーティング時に唱和し、理念に基づいた支援を目指して職員全員で取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	母体法人と町内会合同での納涼祭りや、運動会、市民センターでのふれあい祭り、沼中学の吹奏楽演奏、幼稚園児の演奏会等、地域と積極的に交流をしている	市民センターに隣接した当ホームと同一法人の軽費老人ホームは、町内会と合同で、納涼祭、焼肉夏祭り、運動会、もちつき等を行い、また、地域のふれあい祭り、中学吹奏楽部の演奏や幼稚園児の演奏会など、地域の一員として積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かすまでにはいたっていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者の家族、職員、地域包括支援センター職員、自治連合会長で構成。「市町村との連携」「外部評価結果の報告、その課題」等を話し合い、サービスの質の向上に繋げている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、家族、自治会長、地域包括支援センター職員、ホーム職員がメンバーとなっている。会議では、家族からの要望、地域からの情報提供など活発な意見交換が行われ、出された意見はサービスの質の向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの研修会や交流会に参加し、市町村と協働し、共にサービスの質の向上に努めている	グループホーム協議会に参加し、市職員と懇談し情報を共有している。また、地域包括支援センターの研修や交流会に参加し、積極的に連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議などにおいて身体拘束についての研修を行ったり話し合いをもっている	ホーム長、管理者、職員は、身体拘束の研修を行い、その弊害を認識し、利用者の人権を守りながら、拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議などにおいて虐待についての研修を行ったり、話し合いをもっている		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や地域権利擁護サービスについて内部研修を行っている	成年後見制度や日常生活自立支援事業について資料を整備し、内部研修を行い、利用者や家族が活用するための知識を得て、職員一人ひとりが支援できる体制がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約、介護報酬改定の際には、家族等には十分説明し納得してもらえるように努めている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付先をホーム内に掲示し、意見箱を設置している。家族の面会時に気軽に意見や要望を言える雰囲気作りにも努めている	意見箱や苦情受付窓口を掲示し、家族の意見、要望を聴きだす努力をしているが、なかなか意見は出ない。管理者や職員は、家族と接する機会を捉え、意見、要望が言い易い雰囲気作りにも努めている。	家族同士で話し合える家族会を設立し、家族が抱えている悩み、心配事、要望などホームに伝わる環境づくりを期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議などで意見や提案を聞き、反映できるように努めている	職員会議はもとより日頃から、ホーム長、管理者、職員はホーム運営に関する意見を活発に出し合い、出された意見は出来るだけ反映するよう努力をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職場環境・条件の整備に努めている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は、介護への思いなどを大切にしており、性別や年齢などで差別はしていない	職員の採用にあたっては、性別や年齢を理由に排除することはなく、介護への思いを重視している。また、休憩室、休憩時間を確保し、事業所で働く職員が生き生きと働ける、職場環境を整備している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者の尊厳、人権を守ることは日頃から全職員が心がけている	法人内で開催される人権研修を受講し、利用者の人権尊重について理解し、日常の介護サービスに活かせるよう取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修を職員が受ける機会を確保し、職員一人一人の介護サービスに対する取り組みとやる気を引き出して、職員の質の向上に繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会や北九州高齢者福祉事業協会に加入し、地域の同業者と交流する機会を持ち、介護サービスの質の向上をさせていく取り組みをしている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に事前面接を必ず行い、本人が利用に対して感じていることなどを伺い、安心できるように努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談や施設見学の時に、家族が困っていることや利用に対して不安に思っていることを十分に聞き、安心できるように努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話等での問い合わせや、初期面接において本人の状況及び周辺環境を聞き、必要としている支援を見極められるように努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で家事活動(買い物、洗濯物干し、洗濯物たたみ、台拭き、お盆拭き、食器洗い、裁縫など)を共に行いながら、本人から学んだり、支えあう関係を築くように努めている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報交換を蜜に行い、本人を共に支えていけるような家族との関係を築けるように努めている		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会できるような雰囲気作りを行い、面会時にはゆっくりできるように努めている	隣に併設している軽費老人ホームから入居された利用者が居るため、遊びに行ったり来たりとの関係が続いている。また、釣りの好きな利用者と海を見に行ったり、昔住んでいた場所をドライブしたりの支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が集えるような時間を作り、ふれあいをもてるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもいつでも相談などを受けようとする旨を利用者や家族に伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の聞き取りが困難な場合は家族や関係機関から情報収集をしたりして意向の把握に努めている	職員の異動が少ないため馴染みの関係が出来ており、利用者の立場にたつて思いや意向を聞き取り、その人らしく暮らせるよう支援している。意向の表出が困難な利用者については、家族に相談したり、過去の記録を参考に本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報収集をもとに暮らし方を考えている。家具、日用品についても馴染みのものを使用するように家族とも相談している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の会話や行動を観察するとともに、残存能力を発揮できる場面作りに努めている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望に配慮し、職員会議等でカンファレンスを行っている	介護計画は、本人、家族の要望を聞き、月に1度の担当会議で話し合い作成している。計画は3ヶ月毎に見直しているが、利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度見直している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の気づき等を記録し、介護計画の見直しに活かすように努めている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望に応じて、病院送迎、往診歯科、マッサージなど柔軟に支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	納涼祭りや、焼肉夏祭り、敬老祝賀会、餅つき、クリスマスなどには地域のボランティアの方に手伝ってもらい楽しむことができるように支援している		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者または家族が希望し、または納得している医療機関を受診できるように支援している	利用者や家族の希望を大切に、家族の協力を得ながら、かかりつけ医の受診を支援している。また、ホーム提携医は24時間連絡体制をとっており、安心して適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の軽費老人ホームの看護職員に相談できる体制を作っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院できるように情報は常に提供している		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に苑で出来ること、出来ないことを考えていき、かかりつけ医と相談できる体制を作っている	かかりつけ医、提携医、家族、関係者が、利用者の心身の状態を把握し、全員が共有し、これからの介護について方針を話し合い、利用者や家族が安心して暮らせるように配慮している。	重度化や終末期に備えて、ホームで出来ること、出来ないことを明記したターミナルケアの指針を作成し、日頃から利用者や家族に説明し、納得し同意を得ることをが望まれる。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、訓練を行っている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、隣接の軽費老人ホームの職員や入居者等の協力を得られるようにしている	スプリンクラーを設置し、夜間を想定した訓練を含めた定期的な非難訓練を行い、いざという時に慌てないように備えている。また、非常災害時に備えた非常食、飲料水などの備蓄も完備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に、入居者一人一人の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように意識している	職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、尊厳とプライバシーの確保に努め、優しい言葉かけやさりげない誘導を実践している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いをよく傾聴し、職員主体にならないよう利用者本位の支援を大切にしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおまかな流れはあるが、一人一人のペースを大切に、希望に沿って支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の身だしなみや、月1回訪問美容により、カットやパーマをかけたり、髪を染めたり、利用者の希望に沿って支援している		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者のその日の状態を把握し、台拭きや下膳、お盆拭き、食器洗い等を手伝ってもらい、楽しい食事になるように支援している	利用者の好みや力を活かし、台拭き、食器などの洗い物、片付けを職員と一緒にやっている。また、利用者と職員が同じテーブルで楽しく談笑しながら食事をしている光景が微笑ましく温かい家庭的な雰囲気である。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の確認などをチェック表に記入し、一人ひとりの状態把握に努めている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じて、声かけ誘導や口腔介助をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、時間ごとに声掛け誘導を行い、一人一人そのときの状態に合わせて支援している	職員は、利用者の排泄パターンを把握し、時間を見計らって誘導し、排泄の自立に向けた支援をしている。入院などで一時的に紙パンツになった利用者に対しても、職員一同頑張るって自立に向けて取り組み成果がでている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日タオル体操や、散歩を行ったり、水分補給のチェックを行い、便秘の予防に努めている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、週3～4回行い、出来るだけ利用者の意向に沿った入浴支援をしている。	基本的に1日おき、週3回は入浴していただくように支援している。入浴を拒否される方に対しては、言葉かけのタイミング等を工夫し、気持ち良く入浴できるような支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の臥床や足の浮腫がある入居者には、足を挙上したりと、気持ちよく休息できるように努めている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人の薬箱に処方箋を貼り付け薬の目的や副作用が分かるようにしている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の後片付けや、台拭き、洗濯物干し、洗濯たたみなどや、本人の希望に合ったレク・アクトなどを提供し、それぞれの能力や趣味を活かせるように支援している		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い時には、体調等の様子をみながら少人数でドライブに行ったりしている	利用者一人ひとりのその日の体調や希望に合わせて、散歩、買物、外食、ドライブ、また、併設の軽費老人ホームに出かけたり、日常的に戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物のときスタッフが付き添いをするが支払いなどは本人に直接払ってもらうなどの支援をしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望するときはいつでも電話をかけられるように支援をしている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には利用者の生けた季節の生け花や、作品が飾られている。リビングにはソファを設置し、利用者がくつろげるように工夫している	ホームと隣の軽費老人ホームの間には広い運動場があり、運動会等の合同行事が行われる共用空間となっている。また、利用者と職員と一緒に作った季節毎の貼り絵の大作が壁に飾られ、温かい空間を演出している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置し、思い思いに過ごせるようなスペースを確保している		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家庭から使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせるように配慮している	日当たりの良い、明るく清潔な居室には利用者の馴染みのタンス、椅子、仏壇などが持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ等手すりが必要な場所には手すりを設置し、廊下やリビングには転倒しないように極力物を置いたりせず安全に歩行が出来るように配慮している		